

For the Defence ZPS. Doc. #  
Depend. Doc. 6251

田

原文頁一

文書自示六二五二号 辯護團側用

注意

コ、文書、檢察側文書自示六二五二号中、尚他、部令  
、振華ヲモ欲コイトイフ被告側辯護人、要求ヲ定會  
一九四六年十一月十五日附裁判所命令(文書自示五六九  
號)ニ依リ辯護團側文書自示六二五二号複別家セラレタミナリ。  
コ、文書、或ハ部令、既ニ檢察側ニ依リ證據トシテ提  
出セラレ法廷証示六二五一—A號トイフ番號ガ、イ、居ル。

原文頁二

國務省會議錄示二四號

一九三五年倫敦海軍縮減會議

亞米利加合衆國代表委員會報告書

一九三六年、倫敦海軍條約、原文及其他、文書

印

在ワシントン合衆國政府印刷所

— 一九三六年 —

原文頁三

一九三六年一月十五日第一委員會第十回會議、

議事要録

出席者

海軍大臣 G. B. E. モンセル / MONSELL / 子爵

(議長席)

x x x x x x x

No. 1

Defence Doc. 6251

No. 2

軍艦噸數其通最大限度ニ對スル日本、提案

(討議續行)

議長。即チ。前回の本委員會會議ニ於テ日本  
國代表ハ總噸數限度問題、討議ガ終リ  
イ限リ海軍情報交換ニ関スル諸件、討議ニ  
入ルコトハ出来ナイト言明セラレタ。其、後英  
帝國代表ト、非正式會談ニ於テ日本國代表  
ハ成ルベク速ニ其通最大限度ニ對スル日本側  
提案、討議ヲ始メタイコト又コ、問題ニ関シ各  
國代表諸君、明確ナル意見ヲ承リタイトイ  
コトヲ言ハレタ。ソコニ兩國代表者間、是等  
ノ會談ニ於テ日本側ノ要求ニ鑑ミ、委員  
會ハ其、最初、任事トシテ其通最大限度ニ  
對スル日本側ノ提案、討議ヲ始メル用意ガ  
ルヤ否ヤ他、國々、代表諸君ニ諮ルコトニ決意  
シタ。



Defence Doc. 6251

コト提案、五回、御打合せ行に既ニ御考慮ニサツタコトアリマス  
が、私モ本委員会、日本國代表が其提案支持ノタニ引續イテ  
ナサレトモ、論議ヲ傾聴シ又同代表が提案コトヲ思フ噸數  
限、代表がカレドウカヲ喜ミテ知ラウトニ居ニト私ハ考ヘマス。  
一方他ノ國々代表方ニ於カセウコトモ必ズヤ日本代表、提案ニ對  
シテ十分ニテ且明確ナル御意見ヲ御發表ニテ御用意ガ  
アリトモ思ヒマス。コサヘ済マセシツテ、日本代表、本會議  
目下他重要諸案件、討議ヲ繼續スコト同意セラル様  
私ハ希望致シマス。然レ日本國代表提案、討議ニ入  
先立テ私ハ私ガ公令ヲ語り致シテ、提議ニ御出席、  
皆豫方カ決シテ御同意ヲ云フコトヲ判然承ツテオキ  
タイト存ジマス。

及對モ、ザイセカ、日本國代表ニ御提案、御説明  
ヲ才願ヒ致シマス。

永野海軍大將(翻譯)私ハ先ツ、日本側提案審議  
統ニシメ本日、機會ヲ才與(下サツタコトヲ深ク感謝  
致シ居ルモ、ザアルコトヲ申上ケクイト存ジマス。

ソレ時間節約、タメ才許、ヲ得テ日本代表、説明ヲ

翻譯文ヲ朗讀、セ世具ヒクイト存ジマス。

説明、次、通ラテアツ。

No. 3

Defence Doc. 6251  
一私ハ本委員會、從來會議ニ於テ我ガ提案自  
的ヲ明カニシ且其趣意ヲ示スルタメニ隨分長  
又詳細ニ互ツテ説明致シマシタガ、他、代表諸君  
ハ心中ヨリ疑惑ヲ一掃スル程度ニ私、仕事  
ニ成功スルニ至リナカッタ程ニ思ヒマス。  
ソコデ本日ハ先ニ致シマシタ説明ヲ補足スルコ  
トニ依リマシテ我々、計畫ヲ一層詳ニ我  
々、提案ヲ十分了解シテ頂クタメニ他、  
代表諸君ガ之ニ関シ今迄オ述べ下サツタ  
ゴ意見ニ就テ我々、考ヘマスルトコロヲ申  
上ゲルコトニ致シタイト存ジマス。

若シ私、是カラ申ヒマスコトノウチニ私ガ既  
ニ申ヒマシタコト、重複スルヤウニ諸君ニ思  
ハレル箇所ガゴザイマシタナラバ、日本ノ計畫  
ヲ出来ルタケ判然タル状態ニ諸君ニ御示  
スルタメニ多少ノ重複ハ避ケ得ナイコ  
ト、考ヘマスノデ、コレ矣御辛抱ヲオ願  
致シ度イト思ヒマス。

No. 4  
私ハ他ノ國々ノ高キ市目的ニ十分、敬  
意ヲ表シテ致シマスガ、世界平和ヲ希  
求スルコトノ眞摯ヲ執意ト、上矣ニ於  
テハ他、何レノ玉帛ニモ後シテ取ルモノデ  
ハナイコトヲ茲ニ申上ゲタイト存ジマス。



總テノ國家ノ相互ノ理解ノ上ニ國際間ニ親善ト好意ヲ増進スベキコト、又總テノ國民ハ夫々ノ國家ノ安全ニ就キ何等ノ危懼スルコトナク各國民同ニ平和トイフ天惠が得ラレタ結果トシテ招来サル幸ヲ福ト満足ノ裡ニ各國民が夫々其ノ使命達成ニ邁進スルコトヲ得ヤムルヤリニストエマカ我ガ國際政策ヲ指導精神トナリマス。

ソレ故ニ軍備縮小ノ就キ相互ノ解ニ達スル可能性ナル方策ヲ種々考慮シタ結果我々ハ關係各國間ニ戰爭ノ脅威ヲ取除キ又安全ノ平等ヲ確保スルコトヲ第一ノ目的ト致シタノデアリマス。勿論採用ヤルベキ軍備縮小案ハ國家間ノ差別の取扱ヲ正当化スルヤリテ認メタ考ヘヲ生スルコトノナイモ、デアリレバナリマセン、ソレテ私達ハ其ノ上ニ実行的ノ案デアリマス。保證出來ルヤリニ特ニ留意ヲ致シマス。

私が只今申し上げマシタニツノ点ニ就テ十分考慮シ掃且綿密ニ構想ヲ練ツタ結果我々ノ案ヲ計画致シタノデアリ、日本提案ハ公平デアリ、公正デアリ、且実行的デアリト同時に極メテ彈力性ニ富ムデアルト信ジマス。ソレ故ニ若シ代表諸君が我が提案ヲ詳細ニ且リ同情ノ念ヲ以テ審査直下サルアラバ、ソノ案ノ中ニ軍備縮小ニ就

Defence Doc. 6 251

110.6

テ新タル協定ニ達スルタメ、無理、ナキ基礎ヲ  
発見スルニ重大ナル困難ニ遭遇セラルコトハ明白存  
ジマス。

我々、今日日本、提案ノ最終的、審査ニ入ラウト  
シテ居ル故ニ私ハ敢テ以下ノ希望ヲ述べたいと思  
ハス。即チ代表諸君ハ、現存ノ事實及過去ノ  
事情ニ拘泥スルコトヲ堅キ決意ヲ以テ、新  
タル且目取善哉、成案ヲ得んタメニコト仕テ、当面  
ニ其目的、タメニ日本、提案ヲ、アラユル角度  
カラ而モ其精神及目的同情テ理解ヲ以テ  
研究討議セラルコトヲ希望致シマス。

一、若シ何レカ、國家ガ、ソノタメ、世界、各所テ同  
物ニ惹起セラルハ必要ヲ豫想シテ一ス海軍力、  
要求ヲ持出ストバ、斯ル要求ハ結果ニ於テ二箇  
國或ハ數箇國ヲ相キトスルニ足ル海軍力、要  
求ニ匹敵スルコトニルカモ知ラセズ。斯ル要求ハ如何  
ナル場合ニモ曰一國対一國、關係ヲ基礎ニ考  
度サルベキ軍備縮小問題ニ於テ了解ニ達  
スル機会ヲ邪魔スルニ至ルデモ知ラナイデナリマス。



Defence Doc. 6251

No. 7

若シ二國國力並子國ニ均等、立場互、安全ヲ保障スル  
モノ、海軍力ニ就テ條約ヲ取極タルハ、一、際採用セラルベキ  
基本の方針、ハ軍備、均等ト云フコトアリマス、實際、公平ニ  
シテ且公平ナル方法ガ他ニナシト私達ハ考ヘマス、ソシテ是ハ  
海洋ニヨリテ隔テラレ且ツ相互ノ國防ガ支々、海軍ニ一ニ依テ  
シテ居ルニ因テ、故ニ特ニ然リデアル、更ニ高次ノ海軍  
軍備機動性ト海戰、特異性ヲ考慮スルトキ、全列強、  
防禦力、均等、必要ハ海軍能力、均等殊ニ艦隊、根幹  
ヲ成ス艦種、均等ヲ要請スルモノデアル、故ニ本、提議ハ  
甲級巡洋艦及右以上ノ全大型艦種ニ於テ、各艦種毎ニ、  
均等ヲ條件トスルモノデアル、併シ、用途ガ專ラ防禦的ナ  
アル艦種ニ限リテハ、各國、特種事情ニ適合スル様ニ適  
宜ノ調節ヲ施シテ然ルベキモノデアル、故ニ日本、提議條件  
ハ乙級巡洋艦及是以下ノ全小型艦種ニ限リテハ、数量  
ニ制限ヲ實施スベシトスルモノデアル、此意ニ容易ニ機動性大  
ルトイフハ海軍力、特異性ナリ、一々建艦技術、改良ガ  
續ク限リテハ、該特異性ガ將來益々明瞭ナルトイフコト  
ハ言テ候タナシトスルモノデアル、更ニ數ヶ沙、海域ニ散在シ居ル  
兵力ガ技術的理因ニ必要、秋ハ隨時單一水成ニ集結  
出来ルトイフコトハ、海軍作戰、根本原理デアル、コトガ可能  
ナルトイフコト、而シテ更ニ威國ガ他、一國ニ對テ致命的脅威  
成リ得ル様、ソノ兵力ヲ特定水域ニ集結シ得ルトイフ事倒ハ  
海軍史上幾多、例ニ依リテ確認サレ居ルト云フモノデアル、従テ、  
三國間海軍關係ヲ議タルニ當リテハ、少ストモ

Defence Doc. 6251

No. 8

海戦ニ参加し得ル全艦船ヲ考慮ニ入レラルベキ  
モノナリトスルコトハ素ヨリ當然デアリヌタモ若シ  
一國、斯ル艦船、總數ガ他、一國ノ、ソレヨリモ優  
勢ナルニ於テハ、唯一ノ可能ノ結果ハ劣勢國ノ安  
全感ハ毀ハレニテ優勢海軍國ノ、國際ニ實際  
必要度ヲ超過スル地位ヲ占メ引イテハ他、列強  
ニ對スル脅威トモナルデアラウ  
更ニ可及的不可侵不脅威ノ狀態ノ完璧ヲ  
期サニガ爲、我々ハ攻撃武器、完全廢棄乃至  
ハ徹底的縮減ヲ主張スルモノデアル。更ニ詳  
説スレバ、我々ハ航空母艦、廢棄ト主力艦  
及軍級巡洋艦、徹底的縮減ヲ主張スルモ  
ノデアル。併シモシヌタ主力艦廢棄ヲ支持  
スル一般の意見ガアルヲバ我々ハ之ニ對シ在  
ニテ援助ヲ提供スル用意ガアル。  
性格及目的ニ於テ本質的ニ防禦的デアル軍  
備ニ關シテハ、各國各々ノ情勢ト狀況ニ最  
適ノ方法デ自身ニ對スル施設ヲ爲スベキコト  
ヲ許容サルベキモ、タト信ズル。  
日本側ノ提議、コノ主眼ガ實施サレル  
テラバ海軍カトイフモノハ他國ヲ脅威ス  
ル其能力ヲ大部分喪失スルモノト吾々ハ信  
ズルモノデアル。攻撃武器、完全廢棄  
乃至思ヒ切ツタ縮減ハ直接ノ結果トシテ縮  
少ノ極メテ有カナル措置トナルバカリデナラウ



6251  
尚又各部要ニ亘リ更ニ一層、縮少ヲ招来スル間接的効果ヲモ齎ラスモノと思フ其故ハ攻撃的艦隊、消失カシ結果スル安全感、増進ハ各海軍国間ニシテ、海軍兵力量ヲ更ニ縮減セントスル一般傾向ヲ必ズ醸成スルガ故デアリ。

Defence Doc.

三代表者諸賢ニ日本側提議ノ主眼ヲ令一應想起シテ貫ツ為ニ私ハ己方ノ大体次、通り我オ、形式ノ骨子ヲ披瀝シテ見度ス。先ツ第一ニ如何ナル關係列強ト雖モ超過スルコトヲ許サナイ總括的最大限度噸數ヲ定メテカ、ル。コ、總括的最大限度噸數ハ實際的目的ニ副フ適度、噸數デアラヌ。バナラナイバカリデナク軍備縮少、精神ニ逆ラハナイ様ニ出来ルダケ低度ノ水準ニ決定シテ置カテケレバナラナイ。

No. 9

Defence Doc. 6251

1/10

(二) 總括的噸噸數、決定と同時に、その性質上主として攻撃的の多と通常見做せし居る艦種、即ち主力艦、航空母艦（廢棄せしむる場合）及甲級巡洋艦ニ對し、右三種の艦種、各々三國之に個別の三各國ニ許容せしむべき共通の最大限噸數及び共通の單位數が決定せしむべきであらう。

(三) 乙級巡洋艦、及本質的に防禦的と通常見做せし居る之以下、小型艦艇ニ關して、各國が各々その必要ニ應じて、その等各艦種ニ適當と思はる噸數ヲ決定スルことが出来ルや否ニスルを、敘上ノ艦種全部ニ對し、其共通の總括的の最大限噸數ヲ決定スルに足りしむべきであらう。

(四) 列強ノイギリス、フランス、特殊事情、理由ニ依り、必要と認めたる場合に、任意に甲級巡洋艦、噸數ヲ減じ、第三節ニ述べる防禦艦種ノ何れか、噸數ヲ増加して差支ナシ。

思ふに上述ノ増減ヲ實施スルニハ幾多ノ方法があるであらうが、その技術的調査、討議課題とならば、之を以て之を信ずる。





Defence Doc 6251

コノ條項ハ第三五節ノ條項ト共ニ、各列國ニソノ弱點ヲ填補スルヲ調節ヲナシ得ル甚ダ廣汎ナル餘地ヲ附與スルヲアラウ。

(五) 關係列強諸國ハ前述各節ノ諸條項ノ範圍ニ於テ、各國自ラノ自由意志ニ從ツテ各自ラノ海軍問題ヲ處理スルヤウ安セラルルノデアルカラ、日本案ハ又ズモ、例ヘバ海軍建造案宣言ノ如キ方式、採用ヲ阻止スルモノデハナイ。

(六) 前述ノ各節ニ於テ企劃サレタ調節以上ノ修正實施ノ必要ヲ主張スル國ガ若シアツクナラバ、斯ル主張ハ關係各列強ニ依ツテ周到ニ檢討サレルデアラウ。サウシテ、若シソレガ合理的デ充令根據ノアルモノダト立證サレタナラバ、日本ハソノ承認ヲ拒マナイデアラウ。

併シ、私が繰返シテ説明シタ通り、不可侵不脅威ノ狀態、確立コソ我が提案ノ基盤其物タルヲ以テ、關係

10.11



6251

Defence Soc

國、特殊事情ヲ生ジタ純然タル防禦的  
要ニ基ツテ追加調節、要求ラ我方カ認  
得ル一方不可侵不脅威、狀態ヲ危殆ニ瀕  
シムルガ如キ海軍戰鬥力、増強、如何ナル  
況、下ニツキテ我方ガ到底承服、テキナ  
イフコトハ直ニ諒解、テキルと思フ。

更ニ其、共通、最高限度ガ一旦設定サ  
シテモ全列強ガ其限度迄必ス建造シテハ  
ラナイトイフコトヲ意圖シテイルハナ  
國ガソ、防禦上、必要ニ充分應ジ得ル程  
度、最取小量ニマデ、海軍ヲ制限スギ  
トイフコトハ言ラ候、故ニ列強諸國間  
ニ於ル友好ト相互信頼、絶対不可缺  
ノモノデアル。又斯ル友好ト相互信頼無  
ニハ如何ナルニテ、據リマテ如何ナル原  
ニ基イテ、企画ガナシヤラトモ如何ナル  
種類、軍備縮小條約、締結モ不可能  
イフコトニ就テ委員會ガ我方ト見解  
ヲスルモノナリト信ズルモノデア  
ル

No. 12

Defence Doc 6251

若シ又々方、日本側提議案ニ依リテ企圖サレタル  
通り、海軍ヲ備カシ他國ニ威脅スル能力ヲ奪フ  
事ガ出来タリバ、列強諸國ハ廣汎ナル海軍建  
造ハ必要ニ感ズルデアル事、事實上尤大ナル  
建艦計畫ヲ目論ムガ如キ列強ハ多ク無クナルデアル  
ヲ振言スル、各國正ニ通シ最高限度ノ樹立ガヨリ  
本ナル海軍ハ一般動向ニ制約ヲ與ヘルガツト云フ  
危險ノ根據ハ存シト信ズル

四ノ段階ニ於テ、我が口ニ今説明申上ル、日本側  
提議ノ基調ヲテ根本理念ハニ照ラシテ、我々  
案ニ對スル他ノ列強代表諸國ニ依リテ行ハル  
意見交換中、代表諸國間問題ニサレタニ、  
點ニ就テ考察スル事ヲ許シテ戴キタリト云フ、  
我々、案ノ説明ハサスル事ニ依リテ説明ノ具  
タルト感ズルカニテアリマス。

No. 13



6251 一國の言に、此水域或は太平洋に於て必要と見る海  
軍力に如くは、同國又亦太平洋國家たる、故に更  
に更に同水域に於ては列國、海軍力に同  
等、海軍力に太平洋に於て保有する  
權利を與へるべきである。我々、見る所は、事實上、二國或は、以  
上、國、連合の海軍に同等、海軍力  
を保有する權利を要求するに異なるところに  
あると思はれる。我々、斯る西女に、軍備縮  
小に關する協定、其、艦艇に之を殆ど推奨  
し得るものと云ひ、之を以て、我々、海軍  
且、我々、之に、既、指摘せし如く、海軍  
武力、高度、可動性、鑑み、斯る要求  
を支持し得べきである。

一國のより廣大、又、より多數、海外領土及び  
交通線、を保持する場合、海上に於ては、交戦力、有  
る沿岸線、を備、港灣防衛、其他、斯、種、用、  
に、適、な、小型、の、純、防禦、的、型式、艦艇、を、  
他、列、國、より、大、に、海、軍、力、を、要、求、す、と、正、當、に、  
之、に、我、々、に、之、を、又、容、易、に、解、説、す、所、に、在、り、と、解、  
するに、理由、を、以、て、一、國、の、海、軍、力、全、體、を、優、越、を、要、  
求、す、と、ス、レ、バ、他、列、強、の、安、全、感、に、對、し、為、に、脅、か、す、に、  
可、と、ス、レ、バ、何、れ、に、場、合、に、現、在、其、海、軍、力、の、勢、力、  
均、等、基、礎、上、に、建、つ、た、二、國、の、條、件、が、其、海、外、領、土、

Defence Soc

Defence Doc. 6251

は交通線、同様に同一に、同知、事實  
として信ぜられ、下りて来る。  
或は遠隔、領土を防衛する必要が下りて、  
この虞に論及せしめ、併し我々の斯く遠隔、  
此に領土を防衛するが憂惑より武力を要  
せしと云ふことは、結果として、他國の正  
其の職部たる所を習得せしこととせし、  
其の正當性を理解せしこととせし、  
一國の其の海外領土及び海上交通路を保全  
し得るに否や、一に、同國の海を制し得る  
否や、これに、全り明かに、思はれ、下りて来る。

海外領土及び殖民地問題、他國より考察  
せし、一國が斯く、海外を保持せしこと  
により、廣く世界各地に散在せる補給、基地及  
に源を、利益を、有する、明瞭なり  
。斯く、如き交通線、防護、ミナ、海軍  
力、移動集結、容易、ミナ、海軍  
の利益、と信ぜらる。

No. 15

若し我々が之迄表明せし、海に依存  
する國に、巨大なる海軍力を必要とせし、見解  
を承認せし、日本とて、日本を、  
海に依存する、と云ふことが、更此に止る。



Dyence Doc. 6251

No. 16

日本、天然資源ニ乏シク人口密度ハ世界、何  
ノ國ニ於テモ尤モ稠密ナリ其、存スニ必要ナリ物資、  
大部分モ、其ノ産業、原材料モ均シク止テ海外  
諸國ニ依存セザルヲ得ナシデアリマス。然レ一部、物資  
ハ海外ヨリ取得シツツアルモ其、大部分、必需物資  
ハ自國領土ヨリ補給ヲ受ケ得ル諸國ト日本ト、同  
ニハ甚シキ途庭ガアリマス。此、懸隔ハ國內ニ豐饒  
ナル資源ヲ有シ、大半ヲ自給自足シツツモ國ト比較  
スル時ハ一層顯著トナルデアリマス。斯ル見地ヨリ  
ラ日本、如キ立場ニアル國カ如何ニハ、遙カニ有  
利ナル環境ニアル他國ニ比シ劣勢ナル海軍力ヲ  
以テシテ尚且ツ安全感ヲ抱フコトヲ要求セテ得  
ルヤ理解ニ苦シム所デアリマス。

五、結論トシテ述ベタイコトハ日本ハ一、近海軍軍  
備縮少、廣闊ナル協定締結、希望ヲ捨テルモ、  
デハイガ同時ニ不可能事ヲ達成ヤント主張スルモ  
、デモナト云フコトデアリマス。

日本代表部カ當會議ニ提メシク案ハ過去、軍  
備縮少會議、經驗ト結果トニ照ラシ今日、國際  
關係、現實ニ正當ニ注意ヲ拂ヒ又閣下諸種  
ノ問題ニテハ其ノ角度ヨリ慎重ニ考慮ヲ加ヘテ上ニテ  
作製セラレタモデアリマス。

而シテ我々、確信スル所ハ日本、提案、中ニ盛ニ

Defence 1906 625-1

レテ諸原則、採用ニ依リテ、當會議ニ於テ、多大、困難ヲ伴フコトヲ、海軍軍備縮少、全般的協定締結、達成ニ成功シ得ルト云フコトヲアリマス。

少會議ニ於テ一旦日本、提案案が採擇サレタ上、適宜ノ認メラレテ変更ヲ相ヘク上他、諸提案案、重要ナル其ヲ之ニ盛り込ムベキ亦達ヲ見込スコトヲ可能デアリマス。

其ノ故ハ日本、提案案、軍備縮少、爲、一公式トシテ何等融通、利カズモノデモ又空論ニ走リマス。イデマタイカラデアリマス。本案ニ包括性ト融通性ニ富ミテ實際的ナモノデアリマス。

日本代表部ハ、提案案、提案ニ際シ之が均シク関聯アル全列國ニ満足ヲ與ヘ得ニコトヲ熟慮致シマシタ。我々ハ今回秋ハ、提案案ヲ當會議ニ提案スルノ運びトナリマシタガ之ハ軍備縮少ニ効果アリテ段々ホタル全世界ノ切ナリ希望ニ勵マシソノ最良ノ懷柔ナリ研究ト熟慮トヲ経タス。

No. 17

然レバ、私ハ最後、各代表部ニ於テ、下モ同情ヲ以テ虚心ニ我々、本案ニ慎重熟慮ヲ賜ハフニコトヲ要請スルモノデアリマス。